

前橋市観光協会

(平成元年10月撮影 (黄線内が再築前橋城の範囲)

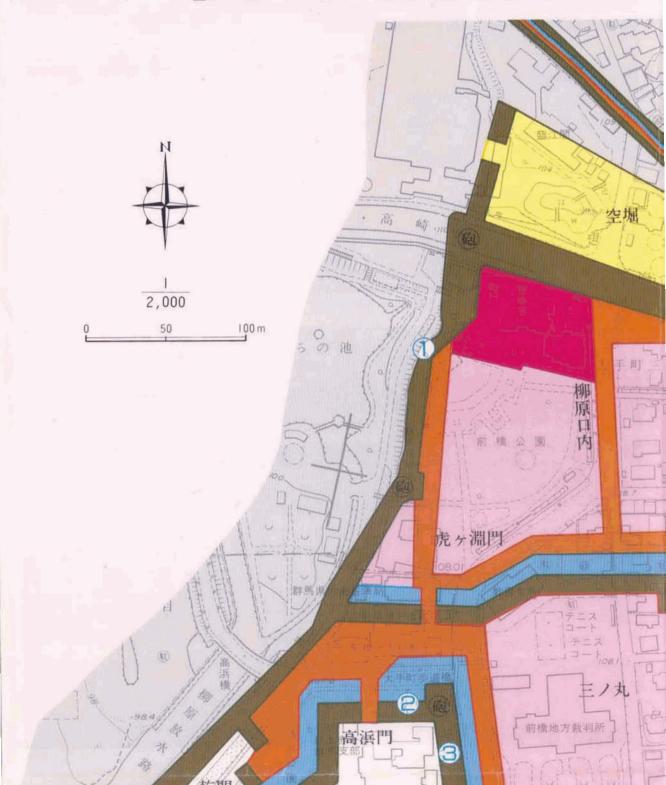
### 前橋城の変遷

前橋には、かつて徳川家康より「関東の華」と言われたという名城前橋(古くは厩橋)城があった。その築城は古く、15世紀末、長野氏によるとされている。

天正18年(1590)徳川家康が関東に入ると、厩橋には平岩親吉を封じた。また、関ヶ原の戦の後、慶長6年(1601)には平岩氏に代わり、家康の重臣、酒井重忠が入城した。酒井氏はその後9代約150年にわたり城主を務め、城郭や城下町を整備した。しかし、17世紀後半から利根川の洪水による城の崩壊が進んだことも原因して、寛延2年(1749)には、城主酒井忠恭は姫路に転封となり、代わって姫路城主松平朝矩が入城した。

その後も城の川欠けは続き、修復工事も行われたが、18年後の明和4年(1767)には、城主松平朝矩は前橋城を放棄し、川越へ移らざるをえなかった。城主が不在になると、前橋城は壊されることになり、約100年間、陣屋が置かれた。その間、町は寂れるいっぽうだったが、幕末になると、安政6年(1859)の横浜開港にともなう生糸貿易により、前橋は活況を呈した。そして、慶応3年(1867)には、町人等の協力を得て、前橋城を再築して城主松平直克を迎えることができた。だが時代は大きく転換して、翌年には明治維新となり、明治4年(1871)に廃藩置県が行われ、その後、城の本丸は県庁として使われるようになった。

# 再築前橋城



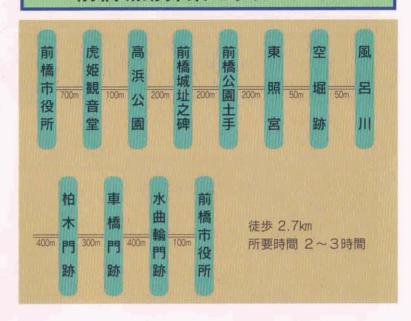
# 復元図





瀬川より城内の生活用水として引き入れ た川。現在も同じ所を流れる)

### 前橋城跡探索モデルコース

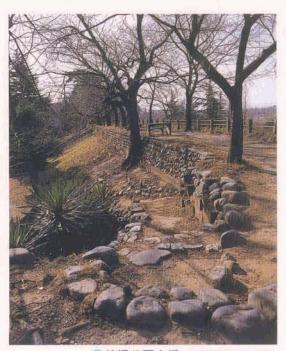




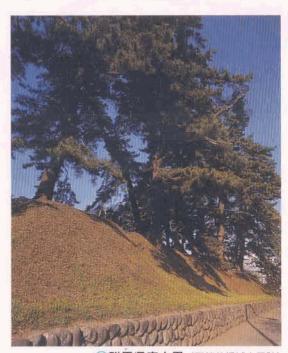
⑤前橋城車橋門跡 (前橋城関連の城門として唯一残る門跡)

千代田市

四學店



①前橋公園土手 (再築前橋城土塁跡)



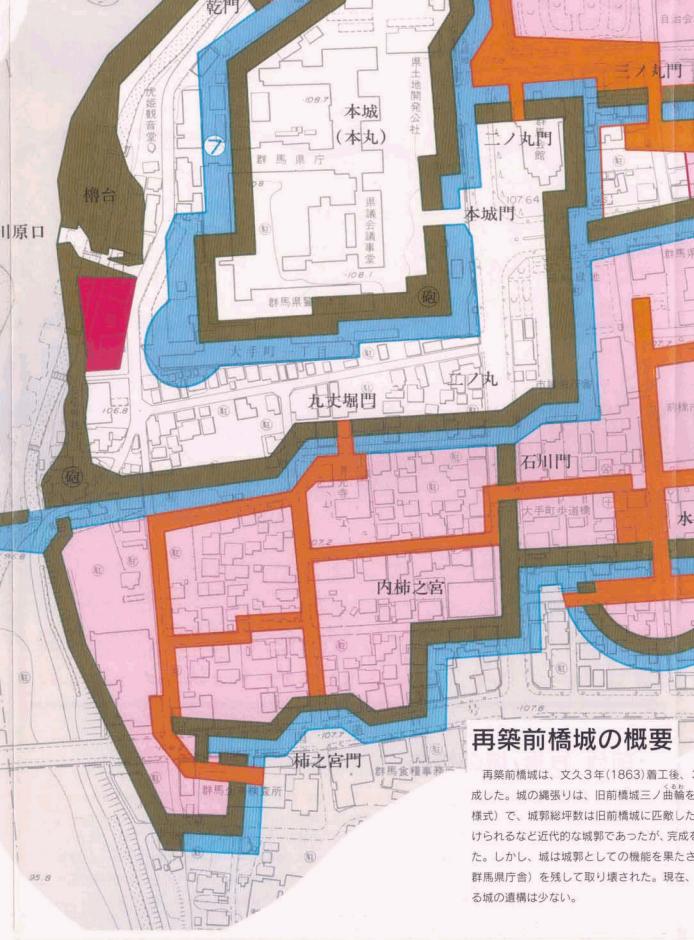
3群馬県庁土塁 (再築前橋城土塁跡)

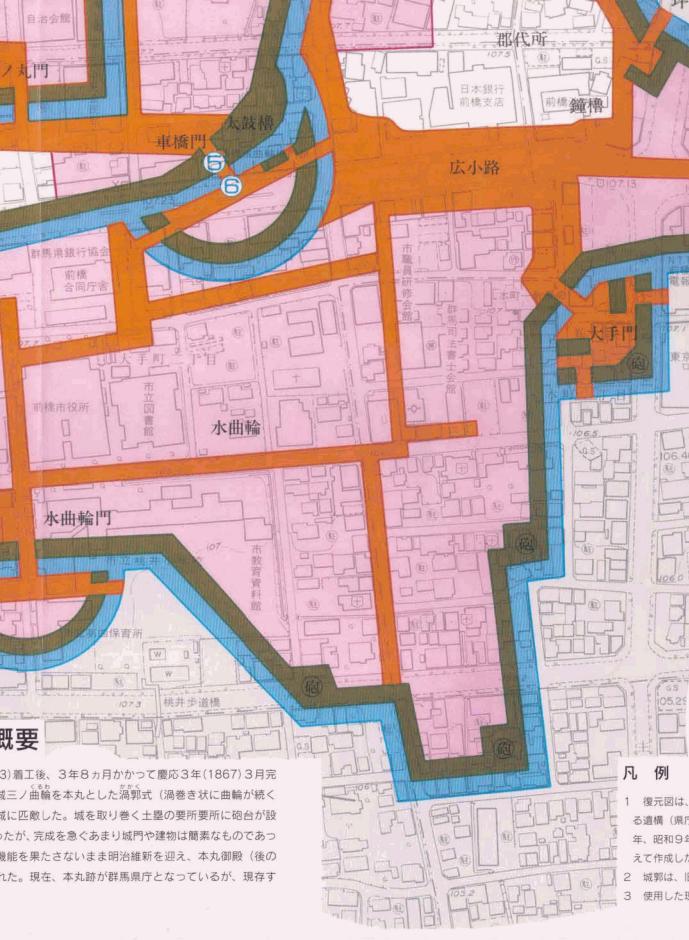


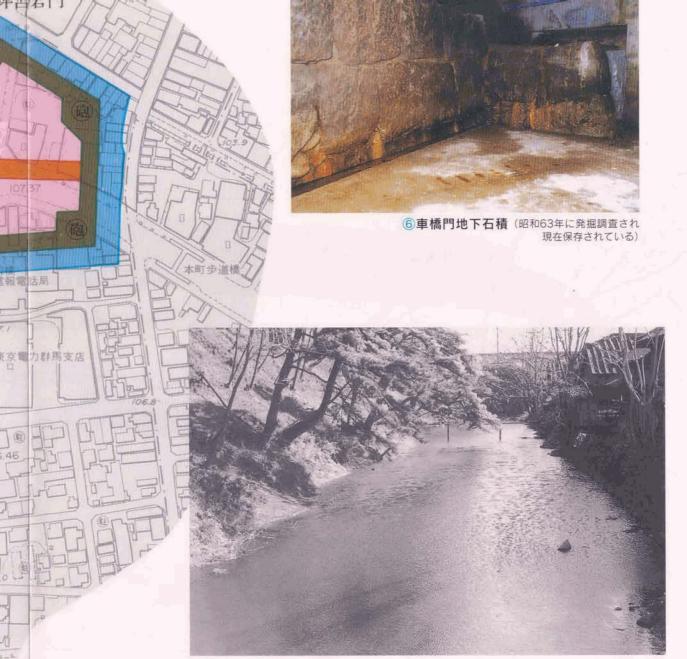
②前橋城址之碑(碑文には城主松平 直克の城再築の功を偲んでこの碑を建 てるとある。)

撰文 重野安繹書 日下部東作

下川原口







⑦群馬県庁まわりの堀跡(本丸西側の堀 現存しない 昭和32年頃島田幸一氏撮影)

は、再築前橋城絵図(群馬県立文書館所蔵)をもとに、現存す 県庁北側土塁、前橋公園土手、車橋門跡、空堀跡)及び明治21 9年、昭和26年等の前橋市街地図を参考にし、現地調査を踏ま した。

旧町の北曲輪町、曲輪町、南曲輪町が、ほぼその範囲となる。 た現況図は、前橋市役所発行の昭和63年12月修正版である。

発行 前橋市観光協会 前橋市大手町2-12-1 ☎(027)224-1111(内線)3603

前橋市教育委員会 文化財保護課 前橋市上泉町664-4 ☎(027)231-9862 · 9531

○監修 佐藤 寅雄

○助言 前橋市文化財調查委員

朝日印刷工業株式会社 前橋市元総社町67 ☎(027)251-1212

### 城絵図でみる

### 前橋城の変遷



前橋城天守閣 (酒井氏時代)



旧群馬県庁車寄せ(再築前橋城本丸御殿玄関)



酒井重忠画像 (江戸時代最初の城主) (源英寺所蔵)

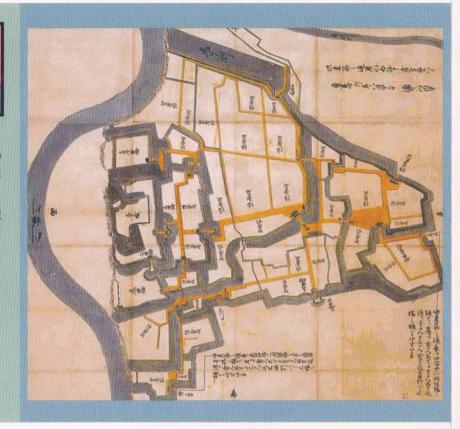


松平直克像 (江戸時代最後の城主)

### 300<sub>年前の</sub>前橋城絵図

絵図に「此朱筋之通用水為 堀申度奉存候以上 貞享四年 酒井河内守」とあることから、 酒井河内守忠拳のときに、城 内に用水堀を引こうと幕府に 願い出たときのものとわかる。 絵図には、用水堀の全長、広さ、 深さが、記されている。

(前橋市立図書館所蔵)



## 230<sub>年前の</sub>前橋城絵図

利根川の洪水による城の崩壊は防ぎようがなく、高浜曲輪が崩れ、本丸までも浸食された。酒井忠恭に代わり姫路より入城した松平朝矩も前橋城を放棄せざるをえなくなった。城の川欠けの様子がよくわかる絵図。

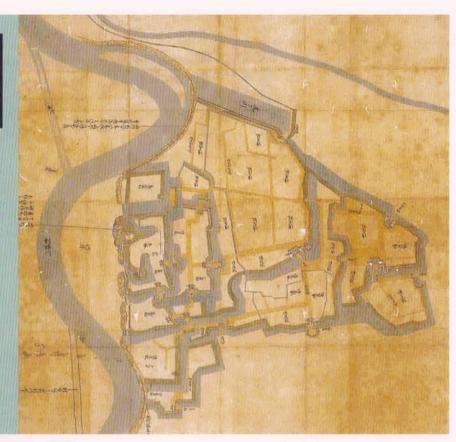
(寒河江まき氏所蔵)



# 280<sub>年前の</sub>前橋城絵図

天然の要害であった利根川が、洪水により城郭を崩壊するため、高浜向河原とその南に堀を開き、流路を変更しようとしたときの絵図。

(前橋市立図書館所蔵)



# 約 160<sub>年前の</sub>前橋陣屋絵図

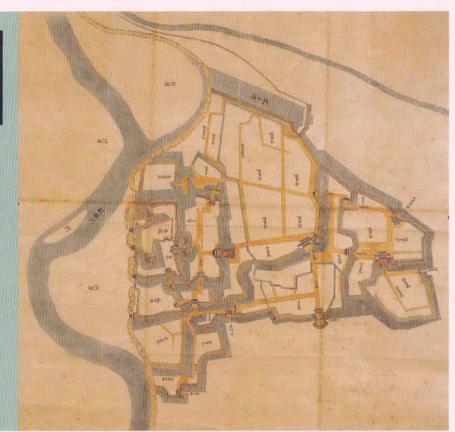
明和4年(1767)藩主松平朝矩が川越へ移城すると、前橋城は取り壊され、代わって陣屋が置かれた(現在の日本銀行前橋支店付近)。幕末に城が再築されるまでの約100年間、前橋は陣屋支配の状態が続いた。

(田代よし子氏所蔵)



# 270<sub>年前の</sub>前橋城絵図

流路変更工事により利根川 の流れは変わったが、意に反 して本丸北に位置する高浜曲 輪を直撃するようになり、城 郭の崩壊は防止できなかった。 (前橋市立図書館所蔵)



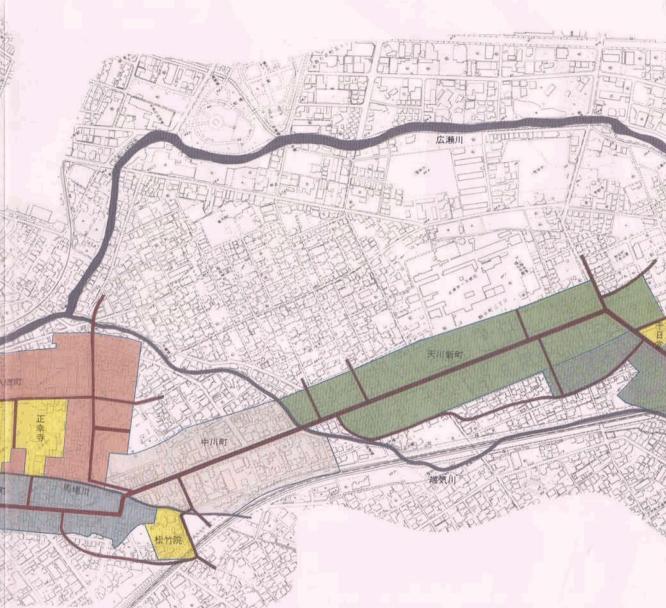
# 約 120<sub>年前の</sub>再築前橋城絵図

幕末になると、生糸貿易で財をなした前橋町民や領地内の村人の協力を得て、前橋城三ノ曲輪を本丸とする城を再築した。現在の群馬県庁は、その本丸跡に建っている。表の再築前橋城復元図は、この絵図をもとに作成した。

(群馬県立文書館所蔵)







### 前橋城·前橋町復元図

### 前橋(**厩橋**)城の概要

前橋(厩橋)城は、戦国群雄の争点となった城を原型として増補改修を重ね、小田原北条氏、平岩氏時代を経て、酒井忠世・忠清の代に総坪数15万余坪の城郭として完成した。城は、江戸を守る北関東のおさえとして、また利根川を利用した要塞堅固の列郭式(縦横方向に曲輪を並べた様式)の縄張りをもつ城として、宇都宮、川越、忍と並んで関東の四名城の一つに数えられたと言われる。その築城は、15世紀末、箕輪長野氏一族の長野左衛門尉方業(固山宗賢)によるとされている。しかし、17世紀後半になると利根川の洪水により城の崩壊が進み、18世紀には酒井氏の転封、松平氏の川越への移城を迎え、明和6年(1769)に三重櫓の天守閣、大手門などが取り壊され、廃城となった。

### 城下町前橋の概要 江戸幕府の老中・大老を務めた酒井氏15万石の城下町として発 展した前橋町は、商人頭木嶋氏の住む連雀町を中心に、江戸道・ 沼田街道に沿って、町が形成された。当時の町名をみると、連雀町、 鍛冶町、紺屋町、本町など城下町に共通する町名があったのがわ かる。また、町の西に位置する城の北、東、南には、城の出丸と しての意図を含んで、寺院が配置された。再築された前橋城が廃 城となった明治時代になっても、城下の各町は江戸時代と大きな 変動がなく存続したが、昭和40年代に行われた町名変更により、 現在の町名・区域割りに変わった。 6,000 500 m 100

# 関東の難前橋

前橋市観光協会 (平成元年10月撮影 黄線内が再築前橋城の範囲)

②前橋城址之碑 (碑文には城主松平 直克の城再築の功を偲んでこの碑を建

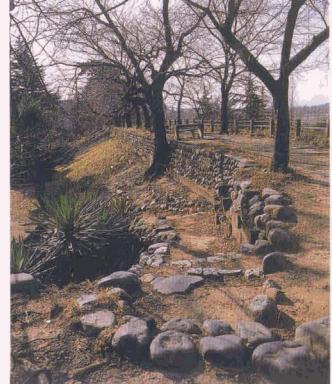
> 撰文 重野安繹 書日下部東作

### 前橋城の変遷

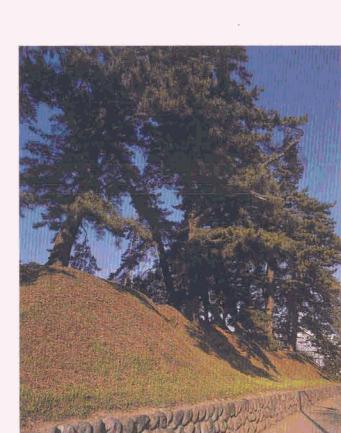
前橋には、かつて徳川家康より「関東の華」と言われたという名城前橋(古くは厩橋)城があった。その築城 は古く、15世紀末、長野氏によるとされている。

群雄割拠の戦国期を迎えると、越後の長尾景虎(上杉謙信)の関東進出の拠点となり、城代北条高広により守 られた。しかし、謙信の死後、天正7年(1579)北条氏は武田勝頼に従った。また、武田氏が天正10年(1582)滅 亡すると、織田信長家臣の滝川一益が入ったが、信長急死により本国へ帰り、城は小田原北条氏の手中に帰した。 天正18年(1590)徳川家康が関東に入ると、厩橋には平岩親吉を封じた。また、関ヶ原の戦の後、慶長6年 (1601)には平岩氏に代わり、家康の重臣、酒井重忠が入城した。酒井氏はその後9代約150年にわたり城主を務 め、城郭や城下町を整備した。しかし、17世紀後半から利根川の洪水による城の崩壊が進んだことも原因して、 寛延2年(1749)には、城主酒井思恭は姫路に転封となり、代わつて姫路城主松平朝矩が入城した。

その後も城の川欠けは続き、修復工事も行われたが、18年後の明和4年(1767)には、城主松平朝矩は前橋城 を放棄し、川越へ移らざるをえなかった。城主が不在になると、前橋城は壊されることになり、約100年間、陣 屋が置かれた。その間、町は寂れるいっぽうだったが、幕末になると、安政6年(1859)の横浜開港にともなう生 糸貿易により、前橋は活況を呈した。そして、慶応3年(1867)には、町人等の協力を得て、前橋城を再築して城 主松平直克を迎えることができた。だが時代は大きく転換して、翌年には明治維新となり、明治4年(1871)に廃 藩置県が行われ、その後、城の本丸は県庁として使われるようになった。



①前橋公園土手 (再築前橋城土塁跡)



③群馬県庁土塁 (再築前橋城土塁跡)

# 再築前橋城復元図



再築前橋城は、文久3年(1863)着工後、3年8ヵ月かかつて慶応3年(1867)3月完 成した。城の縄張りは、旧前橋城三ノ曲輪を本丸とした渦郭式(渦巻き状に曲輪が続く 様式)で、城郭総坪数は旧前橋城に匹敵した。城を取り巻く土塁の要所要所に砲台が設 けられるなど近代的な城郭であったが、完成を急ぐあまり城門や建物は簡素なものであっ た。しかし、城は城郭としての機能を果たさないまま明治維新を迎え、本丸御殿(後の 群馬県庁舎) を残して取り壊された。現在、本丸跡が群馬県庁となっているが、現存す る城の遺構は少ない。

復元図は、再築前橋城絵図(群馬県立文書館所蔵)をもとに、現存す る遺構(県庁北側土塁、前橋公園土手、車橋門跡、空堀跡)及び明治21 年、昭和9年、昭和26年等の前橋市街地図を参考にし、現地調査を踏ま

2 城郭は、旧町の北曲輪町、曲輪町、南曲輪町が、ほぼその範囲となる。

3 使用した現況図は、前橋市役所発行の昭和63年12月修正版である。

○発行 前橋市観光協会 前橋市大手町2-12-1 ☎(027)224-1111(内線)3603 ○編集 前橋市教育委員会 文化財保護課 前橋市上泉町664-4 ☎(027)231-9862・9531

○監修 佐藤 寅雄 ○助言 前橋市文化財調查委員

⑦群馬県庁まわりの堀跡(本丸西側の堀 現存しない 昭和32年頃島田幸一氏撮影)

前橋城跡探索モデルコース

(5)前橋城車橋門跡 (前橋城関連の城門として唯一残る門跡)

所要時間 2~3時間

○印刷 朝日印刷工業株式会社 前橋市元総社町67 ☎(027)251-1212

## 城絵図でみる 前橋城の変遷



前橋城天守閣 (酒井氏時代)

酒井重忠画像 (江戸時代最初の城主)



旧群馬県庁車寄せ(再築前橋城本丸御殿玄関)



松平直克像 (江戸時代最後の城主)

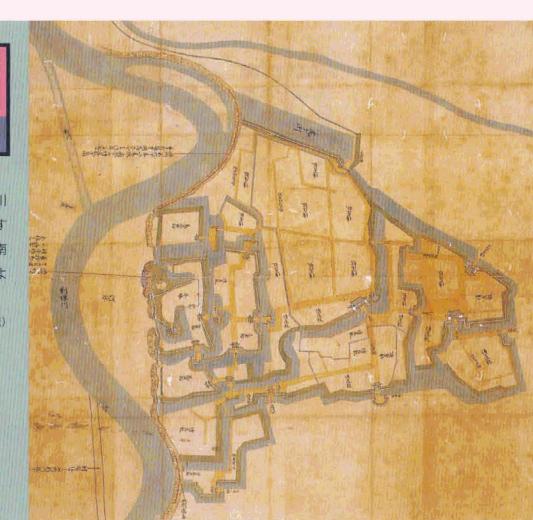


深さが、記されている。

利根川の洪水による城の崩 壊は防ぎようがなく、高浜曲 輪が崩れ、本丸までも浸食さ れた。酒井忠恭に代わり姫路 より入城した松平朝矩も前橋 城を放棄せざるをえなくなっ た。城の川欠けの様子がよく わかる絵図。 (寒河江まき氏所蔵)



天然の要害であった利根川 が、洪水により城郭を崩壊す るため、高浜向河原とその南 に堀を開き、流路を変更しよ うとしたときの絵図。 (前橋市立図書館所蔵)

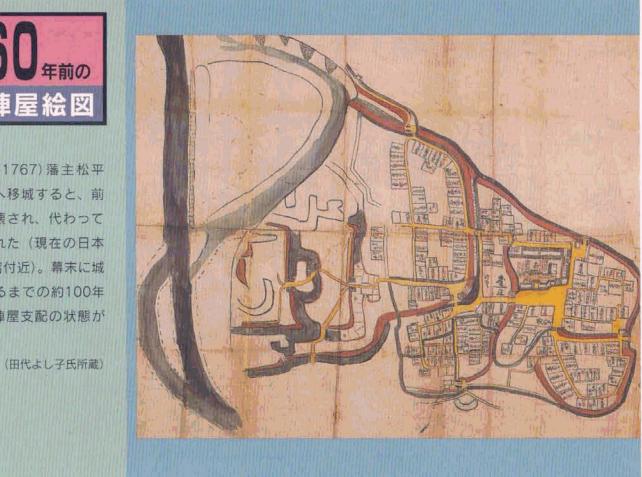


流路変更工事により利根川 の流れは変わったが、意に反 して本丸北に位置する高浜曲 輪を直撃するようになり、城 郭の崩壊は防止できなかった。 (前橋市立図書館所蔵)





明和4年(1767)藩主松平 朝矩が川越へ移城すると、前 橋城は取り壊され、代わって 陣屋が置かれた(現在の日本 銀行前橋支店付近)。幕末に城 が再築されるまでの約100年 間、前橋は陣屋支配の状態が



によるとされている。しかし、17世紀後半になると利根川の洪水により城の崩壊が進み、18世紀には酒井氏の転封、

松平氏の川越への移城を迎え、明和6年(1769)に三重櫓の天守閣、大手門などが取り壊され、廃城となった。



幕末になると、生糸貿易で 財をなした前橋町民や領地内 の村人の協力を得て、前橋城 三ノ曲輪を本丸とする城を再 築した。現在の群馬県庁は、 その本丸跡に建っている。表 の再築前橋城復元図は、この 絵図をもとに作成した。

(群馬県立文書館所蔵)

